

2022年5月24日

会長就任挨拶

一般社団法人日本アルミニウム協会
会長 水口 誠

(株式会社神戸製鋼所 副社長執行役員)

本日の理事会におきまして、令和4年度の日本アルミニウム協会会長に選任されました水口でございます。

2021年度は、一昨年に続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年でした。行動制限により工場における生産制約や物流における停滞が発生し、半導体不足や部品供給不足など産業サプライチェーンの混乱が今も続いています。更に2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻により、様々な影響が出ております。未だ不透明な状況が続いており、一日も早い沈静化を願っております。

これらの混乱の影響により、アルミ業界ではアルミ地金の高騰に加え、副原料であるマグネシウムやシリコンの価格高止まり、エネルギーコストの上昇、物流費や副資材費の値上がり等々、アルミ産業の基盤を揺るがす状況が継続しています。政府より指針を示されている「転嫁円滑化施策パッケージ」に基づき、サプライチェーン全体での適切な対応が求められているところであります。

当協会では2020年9月に「アルミニウム VISION2050」を策定し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをスタートしております。

また、削減目標については、2020年3月に策定した「アルミニウム圧延業界の温暖化対策長期ビジョン(2050)」を基本として、2022年1月に「アルミニウム圧延業界の2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン」を策定、展伸材製造時の国内CO₂排出量実質ゼロを目指すことを公表しました。

その目標達成に向け、徹底した省エネによるエネルギー消費効率改善及び脱炭素電源の利用や燃料転換等の取組みの他、下記二点について重点的に取り組んでまいります。

一つ目は資源循環リサイクルです。

新地金を使用したアルミ展伸材と比較し、リサイクルアルミを使用した場合の温室効果ガス負荷は、新地金の1/30で、リサイクルアルミの使用率を増やすことはCO₂削減に大きく貢献できます。

現在、アルミ展伸材におけるリサイクルアルミ使用率は10%程度ですが、2050年では50%を目指しています。2020年12月に設置した「アルミ循環委員会」の下に「自動車」、「アルミ缶」、「スクラップ見通し」の3つの分科会を立上げ、それぞれの課題を明らかにするとともに、課題解決の仕組み作りを進めているところです。

様々な素材の中で、高いリサイクル性を持つアルミニウムは、カーボンニュートラルにとって必要不可欠であり、大きな課題である地球環境問題に果たす役割はますます大きくなっていくと考えています。

二つめは技術革新です。

アルミニウムは、これからの脱炭素社会、循環社会の実現に向けて大いに貢献できる素材です。軽くて丈夫、電気や熱をよく伝え、リサイクルがし易いアルミニウム素材の特長を活かし、幅広い分野の温室効果ガス削減に貢献できる製品を提供していきたいと考えております。

具体的には展伸材にリサイクルアルミを使用するため、鍵となる「不純物低減」と「不純物無害化」の2つの技術開発を進めています。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」に採択され、2021年8月から自動車メーカー、大学、国の研究所と素材メーカーと共同で研究を実施中です。

又、利用用途の拡大やより高水準な機能への要求に对应していくため、アルミニウムの金属組織の設計や接合に関する技術革新にも取り組んでまいります。

今年4月、経済産業省において、新たな素材産業への変革に向けて官民が共有すべきビジョンである「新・素材産業ビジョン」が発表されました。素材産業は、日本の産業全体の競争力の源泉として極めて重要な位置を占める基幹産業です。同ビジョンではグリーンマテリアル産業への転換が唱われており、上述の通り生産現場における温室効果ガス排出抑制、リサイクル促進などに尽力してまいります。一方で、環境価値が適切に評価され、社会全体でコストを負担していくことにご理解をいただくことも重要と考えております。

協会の基盤活動である「新規需要の開拓」「広報活動の強化」「人材育成」を軸に、アルミ業界発展のために誠心誠意取り組んでまいりたいと存じますので、これから1年間、会員の皆様、関係省庁、ユーザー業界、大学の皆様におかれましては、ご指導の程よろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆様のご健勝と業界の益々の発展を祈念いたしまして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

以 上